

1 ハザードマップは どこで見られる?

ハザードマップとは、災害が発生したときに被害が想定されるエリアや避難場所などを地図にまとめたもので、主に市町村が作成しています。市町村の防災担当課などで配布している他、スマートフォンなどからも手軽に確認できます。

ハザードマップは一つじゃない!?

洪水や津波、高潮など、災害の種別に応じたハザードマップの他、河川ごとにハザードマップが作成されている場合もあります。それぞれのハザードマップを見比べて、自分の住んでいる地域にどのような災害リスクがあるのか確認しましょう。

重ねるハザードマップ

複数の災害リスクを重ねて表示することができます。

ハザードマップポータルサイト **検索**

市町村名などを入力

災害の種別を選択

選択したハザードマップが重なって表示される

2 ハザードマップの チェックポイント

① 自宅や学校、職場などは安全?

まずは、自宅や学校、職場などに浸水や土砂災害のリスクがないか、ハザードマップで確認しましょう。

(例) 浸水のリスク



② 複数の避難先を確保しよう!

複数の避難先から、適切な場所を選ぶことが大切です。避難先は市町村が指定している避難場所だけでなく、安全な親戚・知人宅なども検討し、普段から相談しておきましょう。



③ 避難経路は安全?

避難先までの道のりに危険な場所がないか確認しましょう。自宅からの避難経路だけでなく、学校や職場から避難するときのことも考えておくと安心です。

自宅から避難場所(A小学校)まではいつもはルート①だけど、土砂災害の危険があるからルート②で避難しよう

仕事からの帰りは、駅から直接親戚の家に避難した方がいいかな

避難場所 A小学校

洪水浸水想定区域

- 3m以上
- 0.5~3m
- 0.5m未満
- 土砂災害警戒区域

ルート②

ルート①

B中学校

中学校からは自宅に帰らず、真っすぐ避難場所(A小学校)に向かう

3 避難のタイミングを考える

水害や土砂災害の恐れがあるときは、テレビや防災メール、防災無線などから5段階の「警戒レベル」が伝えられます。

警戒レベル3 高齢者など避難に時間を要する人は避難

警戒レベル4 危険な場所から**全員避難**する「避難指示」

自分や家族が避難するタイミングを確認しておきましょう。

警戒レベル4 避難指示で危険な場所から避難です

警戒レベル3 **避難!** 高齢者等は危険な場所から避難に時間を要する人は避難 (市町村が発表)

警戒レベル4 **全員避難!** 危険な場所から安全な場所へ避難 (市町村が発表)

警戒レベル2 避難行動の確認 (気象庁が発表)

警戒レベル1 心構えを高める (気象庁が発表)

⚠ **警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。**

内閣府「避難情報のポイント」から抜粋

4 避難するときここに注意!

歩いて避難するとき

・冠水した場所は通らない
水に流れがあると浅くても簡単に流されます。

・足元を確認して慎重に進む
排水溝など、思わぬ深さがある場合も。傘などで確かめながら、できるだけ2人以上で行動しましょう。



車で避難するとき

・冠水した道路は避ける
鉄道などの立体交差で周辺より低くなっている場所にも注意。

・川沿い・田んぼの近くは危険
川から水があふれて道路が決壊したり、増水で道路との境界が分からないことも。

